ーこの町の未来ー

『空き家』を考える

平成30年の住宅・土地統計調査によると、全国の空き家数は約846万戸（前回調査時、約820万戸）、空き家率は13・55％（前回調査時、約13・52％）となりました。この数字は、平成25年の前回調査を上回る過去最高の数字となり、空き家は増加の一途をたどっています（※）。

高知県の空き家率は、全国で5番目に高い数字（約18・9％）となっています。香美市の空き家数も増加傾向にあり、平成25年の調査時に約2600戸だった空き家は、今回の調査では、約2790戸の結果になりました。また、市が独自で計算した空き家率は約17・6％（土佐山田町約12・3％、香北町約20・7％、物部町約36・7％）となっています。

※ただし、民間のシンクタンク（研究機関）の予測値では平成30年の調査で、空き家数1000万戸程度、空き家率は16％程度まで上昇すると予測されていましたので、結果は予測と比較するとかなり低い数字となっています。

これは、全国の自治体が空き家数の増加等に危機感を覚え、積極的に対策を行ってきた成果もあるのではないでしょうか。

空き家が増加している原因の一つに『高齢化』があります。高齢になり、一人で住むことができなくなった方が、老人ホームや子どもの家に転居し、住んでいた住居が『空き家』となってしまうケースが多くみられます。香美市は高齢化率が高く、高齢者だけの世帯も多くあります。こういった世帯は、将来空き家になる可能性が高い、空き家予備軍と呼ばれています。今後は、空き家の解消に向けての取り組みに加え、空き家の発生を未然に防ぐための施策も行っていく必要があります。

団塊の世代が高齢者となる時代が間近に迫っている今、『空き家』について、市民全体でこれまで以上に考えていかなければなりません。

誰もが『空き家』の所有者になる可能性があります。現在、空き家の所有者でない方もぜひ、今回の特集をご一読いただき、空き家について考えてみませんか。

思い出のつまった家を
手放したくない

物置にでも使えるだろう

いつか利用する
・・・かもしれない

空き家になった当初は価値のあった物件も、維持管理費が掛かり続け、手放したいときには処分費用だけが重くのしかかるようになっているかもしれません。